



以前もご紹介した、田中牧師のメッセージ「勇気を身につけて最高の人生を歩こう」(税理士法人レガシイ刊)を、長年、聞き続けておられる中田秀治さんに、7月6日にお電話でお話を伺いました。

今も、続けてメッセージを聞いています。7月6日現在、7324回になりました。聞き続けて、「田中先生のメッセージができるようになったのでは」と尋ねられますが、メッセージを覚えたのではなく、聞く度にメッセージからエネルギーをいただいています。

3000回くらいまでは、「このようなことがいいよ」「こういうことだね」と、自信を持ってお分ちかちかできていたのですが、4000回を超えた頃から、ご紹介できなくなりました。伝えたいことが、言葉として伝えられないのです。本当に困りました。暗中模索の中、ふと気づかされたのは、メッセージを聞くことで、自分自身の在り方が変わってきたのではないか、ということとです。北国の方はおわかりいただけだと思いますのですが、雪道で轍(わだち)ができます。普通、轍ができる、その後を続いて走ります。同じ所を走れば走るほど、轍が深くなつていきます。自分は、3000回までは、そのように走り続けてきたのだと思います。轍をトレースしてぐるぐる回っていたようです。

ところが、4000回頃から、おそらく、その轍から別な方向に道を付けようとし始めたようです。溝が深い轍になっていきますから、当然、車であればハンドルを取られ、思うような所に進めません。あっち、こっちにと、とんでもない方向に進むわけですから、それが新しい道となり、新しい自分の在り方へと導いてくれています。

田中師に、以上を報告しましたところ、明確に次のように言いました。

中田氏は、まさに「守破離」のプロセスを強く、明解に辿られたのです。この「守破離」を短い期間に達成する人、また、このように周到な時間をかけてなさる方もおられます。中田氏は、まず、的確に人間の有り様の基本を型としてご自分のものになさったのです。これが「守」。その頃の中田氏からの感想からも、忠実な修道者としての姿勢を感じました。やがて「破」。完全に自分のものとし、自分ならではの表現で一つのメッセージを活用なさっておられました。現在は、「離」。すなわち、メッセージの語り手でもなく、その聞き手でもなく、まったく新しい境地に立っておられます。演奏に例えるならば、正確に楽譜通りに演奏するところから、演奏者の解釈、感性で演奏する段階へ。さらには、演奏者が完全に消えて、作曲者、ベートベンなりシヨパンなり、だけが彷彿とする世界です。田中師が説教者として、「み言葉のみが鮮明に残り、語り手が消え、イエス・キリストのみが見える世界」と語りますが、中田氏は、まさにその世界に達しておられるのです。

(記 高嶋)